

## 平成22年度第5回流山市立幼稚園協議会議事要旨

- 1 日 時 平成23年3月28日（月）午前9時30分～午前11時20分
- 2 場 所 流山市役所第1庁舎4階第2・3委員会室
- 3 出席委員 阿部委員、武下委員、西岡委員、若松委員、秋元委員、長谷川委員、堀内委員、高橋委員
- 4 事務局 鈴木教育長、渡邊学校教育部長、石本学校教育部次長兼教育総務課長  
寺山指導課長、杉浦学校教育課長、古川課長補佐、豊島学務係長  
内海主査
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 (1) (仮称) 流山市幼児教育支援センター附属幼稚園のあり方  
(2) 答申(案)の検討  
(3) その他
- 7 議事要旨 別紙のとおり

## 議事要旨

(杉浦課長) 司会

(教育長) あいさつ

小中一貫校ではなく、小中一貫教育として進めていくことになる。  
本来だと複数の新設校をつくる予定ではありますが、思っていたより人口が伸びないので、小中一校での対応をしていきたいと思う。  
また、幼小中の連携についてもこれからは考えていく必要がある。  
中と幼との交流もあるといいのではないかと思う。

・平成23年度末に退任するにあたってのあいさつ

(西岡会長)

第5回流山市立幼稚園協議会の開会を宣言

議題1 (仮称) 流山市幼児教育支援センター附属幼稚園のあり方について

議題2 答申(案)の検討

について事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

前回までの話し合いの概要

議題1の附属幼稚園のあり方について、今までの話し合いしてきたことのまとめになるように話し合いをお願いしたい。

議題2の答申の素案について事務局で作成させていただきましたので、ご検討していただきたいと説明

### 【質疑・応答】

(若松委員)

江戸川台幼稚園や江戸川台保育所を一体化して「流山市子ども園」とし、(仮称)流山市幼児教育支援センター附属の教育施設にできればよいと思う。流山市の特徴ある幼保小の連携ができるのではないかと思う。

(武下委員)

予算が必要になるのではないかと思う。

例えば、遅くまで預かっていたりとか設備やスタッフの充実をしていくのに人・物・金によって考えていく必要があると思う。(仮称)流山市幼児教育支援センターから情報を発信していければと思う。

また、先程、若松委員から話しがあったが、幼・保・小・中までのふれあいができる連携があればと思う。どこでも行ききできるような体制が好ましいのではないかと

思う。

幼い時から地域の中で育てていければいいのではないかと思う。

(秋元委員)

今、江戸川台幼稚園は、江戸川台小学校に間借りしている状況であるが、いずれはもとあったところに戻るようになっていくが、そこで保育所との連携や地域の方との連携が強くなっていくのではないかと思う。

子ども園という話しがでてきていますが、大人の立場での考え方により話しが進められているのではないかと思う。子どもたちが幸せになる権利を保障しなければならないと思うので、もう少し、子どもの声も聞いてあげてほしい。

子どもは、いろいろな人と接して生活することがとても大切だが、時間単位で人がかわってしまって、子どもにとってはとても苦痛になってきている。個性にもよるが、働く方も時間に区切られてやっているの、子どもにどこまで心を寄せてもらえるのが大切だと思う。

(高橋委員)

先程の武下委員から話しがあったが、子どもたちには良い経験をさせてあげたいということから、今、江戸川台幼稚園は江戸川台小学校の中にあることを利用して、小学校のみなさんと交流を行って、可愛がってもらってすごく良い経験をさせてもらっている。

私の子も年長ですが、「小学校はこんなにいいところなんだ」と子どもたちも心開いていて、小学校に何の不安もなく通わせることができると思った。

こういうことがこれから実現しようとしていることだと思うので、ここから発信して広めていければと思う。

(阿部委員)

幼稚園のあり方は、それでいいのではないかと思います、公立の役割についてになると、これだと何か足りないと思う。今、お話しいただいたことについては、どの幼稚園でも対応していることで、附属幼稚園を利用した調査研究というのがセンターの仕事にあって、施設としての位置づけは他とは違うと思うが、センターの附属ということだからコーディネートする役割はセンターになるが他の幼稚園と違った役割をもたせるのが必要ではないかと思う。

(西岡会長)

この答申案の中に、附属幼稚園のあり方や(仮称)流山市幼児教育支援センターのあり方について2つとも考えていけないといけないが、公立幼稚園を担う役割というのはどんなものなのか、しっかり示していけないといけないと思う。

(西岡会長)

江戸川台幼稚園の職員は、どのくらいいるのか。

(杉浦課長)

江戸川台幼稚園の職員数は、園長、担任2人、補助教諭1人、事務員1人、用務員1人の6人である。

(西岡会長)

3園の形態と今回の江戸川台幼稚園の形態は、あまりかわらないということよろしいか。

(杉浦課長)

現時点ではわかりません。

しかし、今後、設置条例をつくっていく。

現状の職員数のままスライドして、附属幼稚園としてやっていくことになろうかと思う。

今の幼児教育研究室は一人で行っていますので、3月末に流山幼稚園が廃園となりますので、これから調整を行い、今後はスタッフを充実させていきたいと思う。

(西岡会長)

現場は子どもたちと接する先生方で運営していくことが前提だと思う。調査研究については先生方等数名で行うが、支援センターで対応する人数は決まっていないということです。みなさんいかがか。

(秋元委員)

支援センターの仕事内容がわからないが、教育委員会との連携はどうなっているのか、小中高での支援センター的なものがあるのか、独立して支援センターというのは今回初めてなのですが、見えてこないのですけれどもいかがでしょうか。

(阿部委員)

公立幼稚園の役割ということで、予算的はきびしいようであるので、工夫して運営していかなくてはいけないと思うのですが、しかし、最低限これだけはきちっと伝えればと思うのですが、幼小保の連携がとても重要だという話と、先程、秋元委員の話があったとおり、保育での教育の質を向上する研修はとても重要だと思う。幼児教育センターのところの4番目に育成というのがあるが、資質を高めるための研修をするということで読み取れるとしたら、例えば、小学校の先生が幼稚園のことを理解するために幼稚園に来て研修をすることで、支援センターが実習する場としたら、機能はそれぞれであります。中身の連携ができていながら、子どもたちにとって何が大切なのかということが考えていく役割が果たされていくのかと思う。

先程、調査研究についてもセンターの先生方等数名で行っていくとお話があった

が、それをやめて、チームを作って全員で対応していくことで公立での役割が少し変わっていくのではないかと思う。

(西岡会長)

チームというのは、良いのかなと思います。

支援センターと幼児教育センターの役割ということを考えますとかたちと中身について流山市としての理想を掲げてみたらと思う。

(秋元委員)

曖昧なので難しいかなと思うが、生まれてから、徐々に時間と空間を大切にしていければと深まっていけるのかなと思う。

(武下委員)

支援センターとは、基礎研究機関のようなもので、幼稚園が実践していくことだと思う。

支援センターは、教育についての情報を常に調査研究していろいろなところに発信し、幼稚園等で実践していくというようなことだと思う。

スタッフについては、支援センターや幼稚園の先生方は同じ市職員であるので、一緒に協力して行い、見直しながら向上していければと思う。狙いとしては、流山市幼児教育の推進ということがあるのだから、それを基に目標をもってお互いにやり、他市の状況をみながら良いところを取り入れて学んでつくりあげていけたらと思う。また、附属小学校・中学校では教員養成の実験的なことを行っているところがあるので、そういうところの良いところも情報を発信していければと思う。いずれは家庭教育でのあり方・地域での教育のあり方など幅広くやっていけたらと思う。あまり、今話しがでている2つのことだけに拘らないでいいのではないかと思う。

(西岡会長)

研究を重ねたものが実際に生かされて、流山市の幼児教育というものがこのようなものとだと示していくということは、みなさんも同じ考えだと思うが、視点をかえて、①のところにワンストップサービスということが書いてありますけれども、機能をつなげていくということで、ここに示してあるとおり幼保小が立地条件を生かし連携事業を展開して、何かあった場合などは、支援センターに問い合わせれば幼保小のさまざまなことについて回答していければすばらしいことだと思う。

(若松委員)

支援センターに聞けば何でもわかり、未就学児や小学校の児童とかの繋がりについて情報サービスが得られて、0歳児からの情報が得られることができればいいのではないかと思う。

また、保育所との連携ということで、いろいろな課題も多く、時間もかかるかと思

うが、幼稚園と保育所の良いところを出して、敷地は離れているけども一つの教育機関として、新しい流山の幼児教育の提案ができればと思う。

私がPTAの会長の時に、隣の保育所の年長さんと何度も交流していて、小学校に入学後にも、すぐに友だち同士のつながりができた。幼稚園と保育所の密接な連携が進めればよいと思う。例えば、保育所の子どもたちも幼稚園に来て就学前教育のカリキュラムも受けるとか、機能的に連携して保育所で作った給食を幼稚園でも出せるようになれば、就学前の給食に慣れることができるなど、いろいろ繋がることでお互いの良いところが生きてくると思う。保育所では、福祉の面から手厚いケアが必要な親子のケースも出てくると思います。そういう場合に、幼児教育支援センターで扱うのか、福祉や保護者の就労支援まで含めたチャイルドセンターなどの必要もあるのではないかと思います。

(長谷川委員)

流山で生まれ育った子が同じサービスを流山市で受けられて育っていかないといけないと思う。

ただし、保育所と幼稚園とは機能的に違っているので、学校教育の中にある幼保小の連携で数年続いている、幼稚園と保育所、幼稚園と小学校、保育所と小学校の連携は深めていくことは必要なことだと思う。小学校の先生方が保育所や幼稚園ではこういう保育をしているのかもわかってきている。保育所から小学校へ通うことが多くなり、小学校の教育についてもわかってきて非常に充実してきていると思う。

保育から教育への一貫した連携などが益々充実していければベストだと思う。先程から各委員さんからお話がありますが、誰がどこの部分を担っていければいいのか難しい問題だと思う。ただし、保育所の子どもたちも幼稚園の子どもたちも同じように育っていくと思います。お互いに良いところを出し合って寄り添って、子どもたちが充実した保育や教育に繋がっていければと思う。それには、研修や実習をして、普段行っている情報を出し合いながら連携していくことが必要だと思う。いつでも連携しながら情報が飛び交うようなものになればと願っている。

また、子育て支援としては、各保育所では、毎月何日かは地域の子どもたちが保育所に来ている。

長崎保育所は、子育て支援センターが併設されているので、そちらで毎日行っている。保育所には重度の障害をもつお子さんなども来ている。スタッフだけでは賅いきれないこともあるので、地域の方や児童相談所他機関と連携相談等しながら行っている。

(西岡会長)

先程から話しがでてますとおり、機能的に連携し情報を発信していき調査研究をしていくということで、この答申案にある①から⑤までのことについてはこのまま載せていければと思う。

(阿部委員)

②の子どもを中心に据えた保護者支援とありますが、実際に保護者の支援というものを支援センターで行うのですか。

(古川補佐)

前回の第4回の中で、保護者支援の資料を配らせていただきましたが、子どもさん中心の保護者支援という議論がありましたことから、具体的には幼児教育相談や子育ての相談や幼児教育だよりの発刊や行政情報の提供をしていければと思う。

(阿部委員)

①の幼児教育の理解推進というのは。

(古川補佐)

第3・4回目の議論の中で、お母さん方がどうしたらいいのかわからないということがあって、それを幼稚園の先生方に教えていただければ大変ありがたいという意見がございまして、お母さん方だけではなく、幼児教育というものはこういうものですよとお母さん方を含めて流山市全体に発信していくということで書かさせていただきました。

(阿部委員)

かなり重複しているところがあると思ったので、子ども中心に据えた保護者相談支援ということにしておかないと子育て広場というようなイメージになってしまう。

(武下委員)

⑤のところは、先程の話で研修ということもありましたので、附属幼稚園を利用した調査研究などの指導者の研修にしたらいいと思う。あと一つは、地域全体でやるとすれば家庭教育についての研修を加えたほうがよいと思う。

(西岡会長)

① 幼児教育の理解推進となっていますが、より具体的に、今、武下先生からお話しがあった、地域全体で家庭教育についての研修と示していければと思う。

(阿部委員)

④の専門的・技術的な人材の活用とは、どういうことなのか。

(古川補佐)

幼児教育研究室の先生方と協議させていただいたのですが、サポートチームを作って有識者の先生方や幼児教育に携わっている専門の先生方などの意見を取り入れて

進めていったらいいのではないかということでしたので記載させていただいた。

(西岡会長)

次に、2 附属幼稚園のあり方について、何かご意見ありますか。

(杉浦課長)

③ 費用について書かさせていただいたが、前回などの協議会でも保護者の負担についてご意見をいただいているので、記載させていただいた。

また、今までは公立幼稚園が3園の時には、地域の幼稚園ということで行ってきたが、今回、江戸川台幼稚園1園になった場合に、さまざまご家庭の方がいますが、入園料や授業料の見直しも今後どうなるのかわかりませんが必要になるのではないかと思う。

また、減免のあり方についても慎重に考えていかないといけないと思う。

(阿部委員)

この費用のことについては、あり方のところではなくて、意見というかたちで示したほうがいいのではないかと思う。また、この江戸川台幼稚園は公立ということで、公立の役割としては費用が安いということは非常に重要な要件だと思う。それを崩してまでやる意味がないかと思う。あくまでも今回、実験施設としてやろうとしているので、施設は変わるが費用は今までと同じでいうこともここで行っていますということではないかと思えます。費用の格差をなくしたかたちで、幼稚園に入るには安い方がいいと思う人は多いはず。

このことから、メリットとして公立は安いということは、保護者や地域の人たちにとって、こういうご時世でもありますので益々何よりも救いだと思う。

(秋元委員)

公立の費用は、私立の半分であるので、もしスクールバスとか使って行くととなるとみんな江戸川台幼稚園に行きたがると思うが、その歯止めは考えているのでしょうか。たくさん来て抽選しないと入れないことになると思うが。

(古川補佐)

対象は、市全体になる。また、入園希望している方が多い場合は公開抽選で決定していくことになる。

(阿部委員)

支援センターで実験や研究をたくさん行って、どれだけ幼稚園や保育園や小学校にその成果を還元できるのかが、とても重要なことだと思う。そのことがきちんと出来なければ、この世の中、格差が非常に激しくて行きたくても行けない人たちに向けて、

ここで開かれ解消しますということならそれなりに意味があるのだが、今回行うのは、収入とか関係なく受け入れますということなのではないかと思う。

あと、公立はどこでも安いのですが、なぜ公立に税金をかけなければいけない理由がわからないのだが。

(西岡会長)

以前の答申にも書いてありましたが、3園あった時に、流山市に幼児教育を行っていくということを第1回でお話しをさせていただいて、これをもとに流山市として役割としては、幼稚園経営は終わったということで、3園を廃園したということになったわけですから、江戸川台幼稚園が残りしましたが、3園なくして新たな施設として運営して前とは違う役割を担うこととなります。このことから以前の答申と付け合せたかたちで、今回の答申として提出していきたいと思う。

(武下委員)

格差をなくす面など、幼児教育を進めるにあたってはある程度は改善していくことが必要ではないかと思う。

(阿部委員)

公立の果たすべき役割が既に私立もきちんとしてきているので、その役割は終わったのではないかということで発展的に解消しようということになったと思う。幼児教育のスタンダードとして、研究や研修などをして私立幼稚園などとの連携をとりながら全体の質を高めていく役割が、公立の役割があるのではないかと思う。

(高橋委員)

江戸川台幼稚園の現状を私立幼稚園と比べると、①保育料が安い②保育時間が週四日間は5時間・週一日は2時間と短い③給食は全くなく弁当持参④保護者の園への手伝いが多いという状態です。保護者の中には、保育料が安いから、親として大変なことが多いけれども江戸川台幼稚園に通わせている。という人もいます。現在の②～④の現状のまま、保育料を上げてしまうと、私立幼稚園を選択する保護者が増え、公立幼稚園は定員割れになることが考えられます。そうなったとき、「公立幼稚園は定員割れしているのだから必要ないということではないか」という意見が出てくるのが想定されます。私は、流山市の今後の幼稚園を考えた時、幼稚園教育要領に則った指針を示せる場として「公立幼稚園」が必要と考えるので、公立幼稚園存続のために大幅な保育料の値上げはしない方がよいのではないかと考えます。

(阿部委員)

公立は残したら良い、あった方が良くかと思う理由を、もう少し具体的に説明してもらおうと、みなさんにわかりやすく理解していただけるのではないかと。

(西岡会長)

みなさんに理解していただくと、流山市に公立1園あるということに繋がると思う。

(阿部委員)

絶対、公立があった方がいいというだけでは説得力が足りない。

そのためみんなで話し合うことになっていると思う。

(西岡会長)

どうしても公立幼稚園60人必要なんだということをもう少し意見を出してもらいたい。高橋委員の考え方は理解できるが、先程、ワンストップサービスということで、サービスを受ける方からみれば選ぶということになる。そこに行かせるというのは、私たちが公立があると言うことと保護者が行かせることとは異なることになると思う。このことから、説得力のあるものをこの答申に示していかないといけないと思う。

それでは、この附属幼稚園のあり方について、中身をこれ以上追求できないのであれば、支援センターとの関わりの中で必要であるか、教育研究会でうたわれてきたものの実現を図っていくことだと思う。

(阿部委員)

客観的にみて、この理由だけだと支援センターだけでいいのではないかと、どこにもある幼稚園と読める。だから、ここにはどうしても公立が必要ということを示していかなくてはいけないと思う。

(西岡会長)

秋元委員からは、先程、まずは設置してみて、その中で試行錯誤していければということですが。

(秋元委員)

今、江戸川台幼稚園は間借りしているので、いずれは出ていかなくてはならない現実がある。

(阿部委員)

江戸川台幼稚園は、いつ、今のところから出ていかなくてはいけないのか。

(杉浦課長)

現在の予定は、今まで江戸川台幼稚園があった場所は更地になっており、間もなく建設が開始になる予定でありまして、今年の夏までには建物が出来上がる予定です。早ければ、2学期からもとあったところに戻って公立幼稚園として活動していく予定になっている。それにあわせて支援センターの物的な準備をしながら、平成24年度

4月には、支援センター及び附属幼稚園の開園ということになっている。

(阿部委員)

今までの3園の時と違って、江戸川台幼稚園1園になった時点で、中心的な役割を果たさなければならないのではないかと思う。

(秋元委員)

今、江戸川台幼稚園は、幼小で一緒に活動していますので、そこでの研究結果などをこれからの支援センターに生かされればと思う。

(杉浦課長)

江戸川台幼稚園と江戸川台小学校との活動の連携、子どもたちの交流、教員としての組織の連携を今、試行錯誤しながら進んで活動しているので、そのことについてもこれからのステップになると思う。幼保小の関連教育研究については、幼児支援研究室で続けているので、それを実践的なものにしていきたいと思う。

(西岡会長)

附属幼稚園があるからこそ、このような研究ができるのだということになるかと思う。

(阿部委員)

先程、お話しした研修場所というところで、幼稚園と小学校との連携という形ではなくて、中身もとても大切で、中身についても充実して連携してお互いに行ききして分かり合っているということが言えるようにならないといけないと思う。だから、こうやっているのだから、どうしても幼稚園を使ってやるので必要だということになると思います。子ども・教育の理解、育ち・生活の連続について、身をもっていかねばならないと思う。

(西岡会長)

答申は、いつごろまでまとめればよいのか。

(杉浦課長)

4月末までには答申をまとめたいと思う。

(阿部委員・武下委員)

答申案の2ページ目の、理想としてはから始まるところで、「～だろうが、」という言葉ではなくて、「あるべきだが、」と断定した言葉がよいと思う。

(武下委員)

同じところで、「理想としては、」という言葉だと、何か他人事みたいな感じがするので、「本市としては、」の表現にしていと思う。

(阿部委員)

2 本市幼児教育の方向性のところの5行目に、「10数年間～思われる。」とあるが、ここを「流山市の現状を踏まえた10数年間の子どもの育ちへのプランの構築が可能になるのではないかと思われる。」と表現した方がいと思う。

(若松委員)

あくまでも幼稚園から含めた幼児教育ということを入れた方がいと思うので、「流山市の現状を踏まえた幼児教育として、10数年間の子どもの育ちへのプランの構築が可能になるのではないかと思われる。」と表現した方がいと思う。

(西岡会長)

義務教育の小学校からの9年間ではなくて、幼稚園から含めた10数年間ということにした方がいと言うことですね。今のご意見とても重要なことだと思う。

(阿部委員)

2の①～⑥についての語尾を、「～ある。」などのように断定していと思う。

(杉浦課長)

今回、お話しがあったことなどを踏まえて、事務局でまとめさせていただいた後、一度見ていただき、また、そこでご指摘がございましたら直していただき、第6回で答申書を決定したいと思う。

(西岡会長)

ほかに意見はあるか。なければ、これで終了。事務局から連絡があるか。

(事務局)

次回の協議会は4月末を予定しているが、事務局から皆様の都合を聞き対応していきたい。会議録についても市のホームページに載せて、情報公開コーナーにおいても公開する。

(西岡会長)

第5回の協議会を終了する。